

ニ放棄セラル、ヘキヲ以テ益々多量ノ磷分ハ除去セラル、ヘキ機會アリト云フヘシ  
 此ヲ要スルニ南蠻鐵塊ニハ元來多量ノ炭素ト磷素トヲ有セルモ此ヲ以テ刀劍類ヲ鍛鍊セン  
 ニ其ノ炭素ト全時ニ又有害ナルヘキ磷分モ燃燒サレ除去サル、ヘキヲ以テ其ノ精製刀劍中  
 ニハ原鐵塊ニ於ケル如キ多量ノ磷分ハ認ムヘカラサルモノナリトス然リト雖モ一方本邦所  
 産即チ最モ純良ナル和鋼ノミヲ以テ鍛造セル刀劍類トハ亦其ノ殘留シ得ヘキ磷分ニ於テ多  
 少ノ徑庭アルヘク彼ノ從來本邦ニ散在セル刀劍類中(或ハ余ノ今日迄分析セシ十數箇ノ刀劍  
 ニツキ)其ノ含有磷分ニ於テ著シキ相違アリ間々〇〇三べるせんじニ違セルモノニアリテハ  
 或ハ一部ノ南蠻鐵等ヲ使用セシモノナリヤノ想像ヲ畫クモ敢テ不穩當ニアラサルヘシ  
 今爰ニ前數項論述セルモノヲ完結センニ

一、古來世ニ流布セル瓢形南蠻鐵ハ印度所産ウーツ鋼(Wootz steel)ト推定ス  
 二、其ノ含有セル多量ノ磷分ハ其ノ刀劍鍛鍊ニ際シ除去ノ目的ヲ達シ得ヘキモ其ノ作り得  
 ル刀劍ハ尙他ノ種ノ刀劍類ニ比スレバ比較的の多量ノ磷分ヲ含有スヘシ  
 終リニ臨ミテ種々試片ノ供給其他ノ便宜補助ヲ與ヘラレタル諸氏ニ深謝スル所アラントス

## ○拔萃

### 土 木

○商港ノ行政並ニ其貿易ノ發展ニ與フル影響

伊國みらん市ニ於ケル第十回萬國航海會議(一九〇五年)各部會中標記ノ問題ニ關シテ爲  
サレン計議ノ一般ヲ抄録セントス(なほき)

伊ノいんぐれせ氏(Ignazio Inglese, Genoa)會長席ニ就キ、先ヅ本問題ニ關スル諸報文ノ審査官ま  
つゝあ氏(Alfredo Mazza, Rome)ヲ麾イテ總報告ヲ爲サシム、其ノ要ニ曰ク

第一 商港ノ國有ハ其行政上恐ラク最良ノ制度タラン、如何トナレバ國家ハ國ノ隆替ニ  
對シテ至大ノ關係アル經濟的要素ノ一ヲ決シテ閑却スルコトナシ、加之或間接ノ利益ヲ  
以テ主要ノ目的トスルカ如キ事業ノ經營ニハ國家以外能ク之ヲ負擔スルニ足ルモノナ  
シ

第二 商港ノ國有ニ伴フテ免ル可ラサル舉措緩漫ノ弊ヲ避ケンガ爲ニハ、宜敷國家ヲ代表  
セシムルニ只一人ノ監督長官ヲ以テシ、即チ之ニ附與スルニ商港行政上ノ全責任ヲ以テ  
セサル可ラス

第三 港務ノ執行ニ任スル一切ノ官吏ヲ舉ケテ之ヲ該監督長官ノ直接指揮ノ下ニ置キ、以  
テ政策並ニ事業ノ統一ヲ期セサル可カラズ

第四 監督長官ハ自己ニ隸屬スル各部長及ヒ海運業者、船長、並ニ商工業ノ代表者ヨリ成ル  
委員會ヲ設ケテ其協力ヲ受クルコトヲ得

第五 港ノ事業ハ、凡テ之ヲ商業上ノ必要並ニ實行シ得ベキ方法ヨリシテ打算シ且ツハ其  
緩急ヲ圖リテ豫メ明確ニ立案セラレシ計畫ニ從ツテ、實行サレサル可ラズ

第六 港ノ附屬設備例ヘバ起重機、上屋倉庫、泊船渠等ノ建設並ニ管理ハ之ヲ會社又ハ個人

ニ特許シ、且ツ相當ノ特許料ヲ徵收スルヲ以テ可トス  
之ニテ總報告ヲ終リ、直ニ討議ニ移ルヤ

伊ノぎゆりに氏 (Artigo Gullini, Venice) ハ先ヅ立チテ曰ク、右ノ報文中第一ヨリ第三ニ至ル條項  
ハ之ヲ綜括シテ一項トシ、同時ニ港ノ國有ヲ可トストノ意旨ヲ拋棄シテ、之ヲ左ノ如ク變更ス  
ベシト

凡ソ商港行政ノ最良法ハ港ノ一切ノ事業ヲ一公衙ニ綜合統轄セシムルニアリ。

該公衙ノ長官ハ親ラ行政上ノ全責任ヲ帶ヒ各種ノ港務ニ任スル吏員ヲ悉ク之レニ隸屬セ  
シメテ、以テ監理ノ統一ト事業ノ敏活トヲ期スベシ

會長いんぐれせ氏曰ク、國家ハ商港ノ如キ國家經濟上ノ要素ヲ全ク閑却シ能ハサルヲ如何  
ぎゆりに氏答フラク、國家ハ常ニ港ノ行政委員會ニ若干ノ委員ヲ派シテ自己ヲ代表セシムル  
ヲ得レバ、則チ之ヲ閑却スルノ理ナシ

白ノにつさんざーる氏 (Nysens Hart, Bruxelles) 曰ク商港ノ行政ヲ國家ニ委スルヲ以テ明白ニ  
最良ノ方法ナリトスルガ如キ結論ヲ下スニ方リテハ、今一層ノ慎議ヲ盡サレンコトヲ望ム、而  
シテ予ノ見ル處ニヨレバ之レ大ニ反對スベキノ點タリ

各國商港行政上ノ種々ノ相違ノ點ヲ對比研究スルハ甚ダ有利ノコトナリト雖モ、亦之等種々  
ノ組織ハ夫々其ノ國ニ在リテ甚ダ良好ノ結果ヲ與フルモノナルコトヲ思ハザル可ラズ、而シ  
テ予ノ意見ニヨレバ、今日商港ノ行政ニ對スル通則ハ宜敷左ノ如クナラザル可カラズト信ズ  
凡ソ港ヲ利用スル點ヨリシテ港ト最モ親近ノ利害關係ヲ有スル團體ニ、委スルニ港ノ一切

ノ處理經營ヲ以テシ其認メテ必要ナリト信スル事業ハ、仔細ニ之ヲ調査審議シ且ツ適當ニ之ヲ實行スルニ於テ、何等他ノ阻碍掣肘ヲ受ケシメザルベキヲ要トス

換言スレバ、港ノ行政ニ參與スル機關ノ數ヲ可成最小ニ減縮シテ以テ貿易並ニ航運上ノ變化ニ應ジ、斷エズ且ツ敏速ニ、其必須ノ要求ヲ充足セシメザル可カラズ

其通則ヤ即チ斯クノ如シト雖トモ、而モ各國夫々其慣習ヲ異ニス、例セバ我白耳義ニテハ、港ヲ監理スルモノハ國家ニ非ズシテ都市ナリ、即チ國家ハ其費用ヲ以テ港ニ達スル水路ヲ改良スルモ、港ノ運用ニ關シテハ獨リ都市自ラ之ニ任スルノミ、ザレド此原則モ亦近年ニ至リテ少シク變更セラル、ヲ致セリ、即チ議會ニ於テせしむるつげ並にふるしむる築港(Zebrunge and Bruges)ヲ議定セルニ方リ、ふるしむる市ガ自ラ之ヲ實行スベシトノ右ノ原則ハ變更セラレタリ、之レ疑ヒモ無ク同市ガ多年港ヲ監理スルノ習慣ヲ逸セル爲メ、工費五千五百万法ニ上ル該新事業ヲ自己ノ手ニ收ムルニ躊躇シタルニ因ル

此故ニ今日政府ハ右二港ノ事業ヲ擧ゲテ一ノ私立會社ニ特許シタリ、即チ該會社ハ一大自治團體ヲ組織シテ萬般ノ事業ヲ創設シ、更ニ特許期間ノ修了ト共ニ、其設備ガ國家又ハ都市ニ買收サルベキモノトナレリ、而シテ該方法ノ良否如何ハ今日尙之ヲ議スルノ時機ニ達セズト雖ドモ、其組織ハ甚ダ英國諸港ノモノニ類似シ、又予ガ最初ニ述べタル主張ニ對シテ好事例ヲ與フルモノタリ

予ノ考フル處ニヨレバ、此組織ハ凡テノ行政方法中最良ノモノタルベシ、何トナレバ此組織ニ在リテハ、能ク種々ノ行政機關ノ干涉ヲ脱シ一ニ直接貿易上ノ要求ヲ満足セシムベキ運用ノ

自在ト敏活トヲ期シテ直往邁進シ得可ケレバナリ又該法ニ次デ予ハ港務運用上ノ自由ヲ有  
 スル市有制度ヲ可トス而シテ監理機關ノ複雑ノ爲ニ到底最善ノ要求ヲ充タスニ足ラザル彼  
 ノ國有制度ノ如キハ之ヲ其最後ニ數フルニ於テ毫モ躊躇スル處ナシ

佛ノじよー氏(Paul Joly, Paris)曰ク人若シ商港行政上ノ種々ノ組織ニ就テ其利害ヲ考フルニ  
 於テハ之ヲ或短期間十五年乃至三十年特許セル會社ノ運用ニ委セシムルヲ以テ最良ナリト  
 セン何トナレバ該特許會社ハ此短期間ニ於テ可成港ノ事業ニ關スル最大利益ヲ得ント欲シ  
 テ非常ノ熱心ヲ持ツベク從ツテ自然其貿易ヲ極度ニ増進シ且ツ顧客ノ利便ヲ計ルニ於テ最  
 良ノ手段ヲ工風スベシ即チ之レ他ノ組織ヲ以テシテハ到底企及シ得可ラザル點ナリ英國ニ  
 テハ無限ノ長期ニ亘リテ特許ヲ有スル會社アルニ反シ佛國ニテハ其數僅ニ二ツノミナレド  
 モ其期間甚ダ短カク從ツテ非常ノ利便ヲ顧客ニ提供センコトニ盡力シテ止マザル狀アリト  
 氏ハ次デ各國ニ適用シテ最良ナルベキ或特種ノ行政組織ヲ見出スコトノ困難ナル旨ヲ述ベ  
 タリ

英ノはーニーと氏(Vernon-Harcourt, London)曰ク英國ノ商港行政組織ハ大陸ニ於ケルモノト大  
 ニ差異アリ英國ニテハ一般ニ各港夫々海運並ニ貿易上ノ要求ヲ満足セシメンガ爲ニ最上ノ  
 方法ヲ講ジツ、アリ而シテ之ニ對スル有力ノ援助ハ即チ競争ナリ例セバリヂあぶる港ハ  
 天與ノ恩惠ニ乏シク之ヲ改良スルガ爲ニハ實ニ莫大ノ費額ヲ要セリト雖ドモ常ニ能ク之ヲ  
 遂行シテ止マザルモノハ畢竟さうざんぶとん港(天與ノ恩惠至大ニシテ水深モ十分ニ且ツ繁  
 船岸ハ良好ノ庇陰ヲ有シテ多大ノ船舶ヲ之ニ誘致セシムル處ノモノ)ニ競争セントノ爲ニ外

ナラズ

要スルニ何レノ港ヲ問ハズ其存在ニ必要ノ條件ハ只貿易ノ利便ニ向ツテ其凡百ノ改良ヲ繼續遂行スルノ外アル可ラズ

獨ノでーみんぐ氏 (Von Doemming, Berlin) 次デ曰ク、本問題ニ就テハ先ズ宜敷國ノ状態ヲ識別セシコトヲ要ス我獨乙ヲ以テ例セハ、名むでん及ビゲーすてみゆんで港 (Frisland and Geestemünde) ハ國ノ監理ニ屬シ、就中後者ハ漁港トシテ非常ニ發達セリ、ザレド又すてつらん、ゲーにつひすべるひ等 (Sietin, Königsherg) ノ如ク市有港トシテ能ク重要ノ位置ヲ占ムルモノアリ

凡ソ國家ノ監理ニ伴フ特種ノ不利ハ、即チ間斷ナキ變化ヲ生スル(時トシテハ又極メテ急激ノ變化ヲ齎ラス處ノ)貿易上ノ要求ニ對シテ、十分敏速ニ、之ニ處スルコト能ハザル點ニアリ、予ノ所見ニヨレバ、本報告ノ結論トシテハ宜敷港務ノ一切ヲ擧ゲテ之ヲ一監督廳ニ附與シ、以テ一般ノ利害ニ關スル事業ノ進行ニ最モ容易ナラシムルノ要アリト言ハンコトヲ欲ス

白ノろわい、やト氏 (Gustave Royers, Anvers) 曰ク予ハ茲ニ幾多ノ論議ヲ敬聽シテ、最後ニ何人ガモ能ク完全ニ之ヲ集拾シ能ハザルベキカヲ思ヘリ、夫レ幾多ノ行政法ハ夫々利トスル處アリ、又不利トスル處アリ、

或點ヨリ見レバ、國家ハ港ヲ發達セシムルガ爲ニ最良ノ地位ヲ占ム、例セバ船舶ノ寸法増大スルト共ニ非常ノ大工事ヲ要シ、而モ豫メ之ヲ準備セントスルモ爲ニ要スル直接ノ收入ヲ求メ得難キガ如キ場合ニ於テ、國有ノ利益ハ至大ナリ、又然ラザルモ、國家的利益ノ保護ハ常ニ之ヲ政府ノ力ニ待タザル可ラズ、之レ政府ガ商港ノ行政ヨリシテ到底其手ヲ抜ク能ハザル所以又

國家ノ資力ハ或意味ニ於テ無限ナリ、之レ大問題ノ解決ニ方リテ常ニ其力ヲ必要トスル所以ナラズンバ非ズ

然レドモ一方ニ政府ノ行政ハ、港ノ華客ノ要求ヲ充タサンガ爲ニハ餘リニ遠過ギルノ不利アリ、政府ノ決裁ヲ俟タンガ爲ニハ常ニ尠ナカラザル時間ヲ要スルヲ免レジ

然レドモ白耳義國大臣ノ一人ハ曰ク、人ハ餘リ遠クヨリシテ監理シ得ルトモ、遂ニ餘リ近クヨリハ之ヲ監理スルコトヲ得ズト、然リ、特許會社ニ在リテハ、常ニ華客ヲ惹カンガ爲メニ其熱心非常ナルモノアルベシト雖ドモ、而モ其望ム所ハ一モ國家經濟上ノ利害ニ非ズ、彼等ハ能フ限リノ利益ヲ得テ自家ヲ利セザル可ラズ、且ツ其特許ニ期限アル時ノ如キ其希望ヤ畢竟其存續期間ノ外ニ出デズ、從テ彼等ハ大ニ進歩スルコト能ハズ、其信用ヤ無限ナルコト能ハズ

英國ニ於テハ、其特許ハ常ニ九百九十九年即チ實際ニ無制限ナルヲ以テ事情少シク異リ、能ク遠キ將來ヲ推究シテ事ヲ處シ得ベシト雖モ、而モ此會社ト雖モ、往々最有利ノ貿易ノミニ熱中シテ、爲ニ國家經濟上ノ必要アルモ報酬ノ之ニ伴ハサルベキ或種ノ貿易ハ措イテ之ヲ顧ミサルノ弊アラシムラ處ル

要スルニ予ハ凡テノ場合ニ利害ノ伴フモノナルヲ云ヒ得ハ足レリ

につきさんざゝる氏曰クろわいやゝ氏ノ說ハ、特許會社ニ就テ曩ニ予ノ主張セル處ト毫モ反スル處ナシ、否實際ハ氏モ、港ノ行政上常ニ極メテ容易ノ活動ヲ與フルニ足ルベキ組織ヲ以テセザル可ラズトノ通則ニ就テ予ト一致セリ、特許會社ノ組織ハ、寔ニ特許期間ヲ無制限トスル英國風ニ非ザルヨリハ、會社自己ニ取リテ至大ノ恩惠ヲ見出ス能ハジ、サレド我白耳義ニテハ、現

ニ有限ノ特許會社ニ於テモ、其港務ノ活動、發展ノ熱心、將來ニ對スル劃策、及ビ會社ノ信用ニ就テノ明カナル左券ヲ呈セルニ非スヤ、請フ之ヲ更ニ鐵道ニ就テ例センニ、機械、しぐゑ、材料等ノ間斷ナキ改良ヲ企圖スルモノハ、之レ常ニ私設鐵道會社ノ事ニ非ズヤ、面シテ政府事業トシテノ如是ノ改良ガ絶ヘズ甚ダ緩漫ナルハ何カ爲ゾヤ

私設會社ガ常ニ目前ノ利益ヲ追ヒテ一ニ顧客ヲ喚ブニ汲々タリト爲スモ、而モ之レ却テ商業並ニ取引發展上ノ主要否、根本的素因ヲ爲スモノニハ非ザルカ

況ヤ若シふるーぢ及ビせーぶるつげ港ノ特許ノ如ク、或時期ニ於テ政府並ニ市ガ會社ノ經營セル一切ノ設備ヲ買収スベキ義務ヲ有スルニ於テハ、會社ノ財政上ノ憂慮ハ消失シ資金償還ノ方法ニ縷心スルノ要ナク、其信用ハ特許期限ノ爲メニ制限セラレズ、而シテ將來ニ對スル發展ノ計畫ハ常ニ大ニ開カルコトヲ得ント

斯クテ氏ハ自治起業組織ノ他ニ優越セル所以ヲ固執セリ

伊ノふりーす氏 (Gualiero Fries, Venice) ハ曰ク、特許會社ガ港ヲ經營スルヨリシテ生ズル利益ノ點ハ、予ハ全然につさんざーる氏ニ同意ス現ニ伊國ノ如ク、一九〇二年マデ一切ノ港ヲ政府ニテ監理シタリシ國スラ、茲ニ國內第一ノ要港タルせのあ港ノ事業ヲ舉ゲテ、港ト直接ノ利害關係ヲ有スル團體ノ代表者ヨリ成ル一委員會 (Consortium) ニ委スルノ必要ヲ認メタルニ非ズヤ、此組織ハ勿論正シキ意味ニ於テノ會社組織ニ非ズト雖ドモ、而モ其行政ヤ凡テ自治的ナリ、而シテ同港ノ地方的利害ノ代表者タル委員數ハ、一方ニ政府ノ直接撰擇セル官吏ノ委員數ヨリモ少數ナルヲ以テ、國家的利害ハ常ニ十分ニ保護セラレツゝアリ、但シ此組織ノ利害ニ就テハ



更ニ多年ノ經驗ヲ俟タズシテ濫リニ之ヲ定ム可ラザルコト勿論ニシテ、自然其設置ニ間近キ今日未ダ之ヲ判スルニハ足ラズ

總報告者まつつあ氏曰ク前來ノ討議ニ鑑ミテ予ハ茲ニ予ノ報告書ノ第一項ヲ左ノ如ク變更セント欲ス港ノ行政ニ關スル最良方法ノ撰定ハ各自其地方的状態ニ應ジテ、能フ限リ之ヲ其政府ノ見ル處ニ委スベシ

會長ハんぐれせ氏曰ク、本會議ニ提出セラレシ問題ハ、之レ如何ナル組織ガ港ノ行政上最良ノ方法タルカヲ知ルニ非ズシテ、只單ニ貿易發展上種々ノ行政組織ガ如何ノ影響ヲ與フルモノナルカヲ知ルニアリ、今政府ノ行政ニ關シテ、につさんざゝる氏其他諸氏ノ爲サレシ討議ノ如ク政府ハ其港ヲシテ常ニ貿易上ノ要求並ニ港ノ利害ト相追隨セシムルガ爲メニ取ルベキ決定並ニ手段ノ甚ダ緩漫ナルヲ免レズトノ非難ハ、寔ニ適切ナリ、サレドコハ之レ單ニ港ノ行政機關ヲ單簡ナラシムルヲ要ストノ論旨ニ歸着スルモノナリ、即チ若シ國家ガ港ノ行政機關ヲ簡一ナラシムルノ方法ヲ實行シテ、以テ貿易ノ發展ト港ノ作業並ニ設備ノ進善ヲ能ク敏活ニ處理スルコトヲ得ナバ、其行政ト雖ドモ、必ズシモ私立會社ニ讓ラサルベキ良好ノモノト云フヲ惜マザラン、故ニ凡テノ行政組織(縱令政府ノ管理ト雖モ)ハ、若シ以テ貿易上ノ要求ニ應ジ、且單ニ港其モノ、ミナラズ、同時ニ又之ニ附屬セル凡テノ設備殊ニ鐵道トノ連絡之ニ就テハ港ノ國有最モ利アラシノ如キニ就テ、夫々極メテ迅速ニ之ヲ處理スルヲ得バ、其凡テガ等シク良好ナリト云フ能ハズヤ

佛ノるくるーる氏 *Mengin Lecrenux, Paris* 曰ク、港ノ行政上其最便宜ノモノニ就テハ、之ヲ各國夫

々其見ル處ニ委スルノ外ナシ、又貿易ノ發達ニ對シテ何レガ最良ノ行政方法タルカノ問題ハ到底以テ十分ノ結論ヲ導クニ足ラズ、只予ノ見ル處ニテハ、如何ニ政府ガ自ラ港ノ爲ニ其職ヲ盡ストスルモ、之ヲ一私立會社ニ委スルガ如ク、諸港間ノ競争場裡ニ立チテ、十分適意且ツ敏捷ノ運用ヲ爲シ能フモノニ非ザルヲ以テ、寧ロ後者ノ利便遙カニ大ナルヲ思フト

尙若干ノ談論アリテ後、じよりー氏ノ提議ヲ採用スルニ決シテ、次ノ結論ヲ得、以テ本會ヲ終ハレリ

凡ソ港ノ繁榮ニ利シ貿易ノ發達ニ便スル處ノ如何ナル行政組織モ皆等シク良好ナリ、但シ行政其者ガ良好ナル時ニ限ルハ勿論ナリ (完)

○世界諸大港ノ貿易額 次ノ表ハ近年ニ於ケル世界ノ諸大港ノ貿易的勢力ヲ表ハスモノナリ

	ろんごん	一年間	二八五、〇〇〇、〇〇〇磅ノ貿易
りぢあぶうる			二七七、五〇〇、〇〇〇
にう、よるく			二二一、〇〇〇、〇〇〇
はむぶるぐ			二三〇、〇〇〇、〇〇〇 (沿岸貿易チ含ミテ)
まるせいゆ			一八六、〇〇〇、〇〇〇
あんごわあぶ			一五〇、〇〇〇、〇〇〇 (河及運河ノ貨物チ含ミテ)
かるかつた			五九、〇〇〇、〇〇〇
ぼびべい			五一、〇〇〇、〇〇〇